

生涯、音楽に情熱を燃やした

成田為三のプロフィール



● 昭和15年頃の為三

明治26年、森吉町米内沢（旧米内沢村）に生まれる。大正2年、秋田県師範学校卒業後、1年間小学校教師。同3年、東京音楽学校入学。在学中、在野の山田耕筈に作曲を師事。大正4、5年頃「浜辺の歌」を作曲。同6年同校卒業。大正8年『赤い鳥』に「かなりや」を発表、一躍有名になる。以後、『赤い鳥』の専属作曲家となる。

大正10年ドイツ留学、同14年帰国。同15年、鈴木文子と結婚。昭和3年、川村女学院講師。同8年、東洋音楽学校講師。同15年、国立音楽学校教授。同20年、脳溢血のため51歳で急逝。

■ 為三が作曲した主な歌曲

- | | |
|-----------|-------|
| 赤い鳥小鳥 | 北原白秋 |
| 秋田県民歌 | 倉田政嗣 |
| 管弦（いとたけの） | 明治天皇 |
| うらうらと | 加茂真淵 |
| かなりや | 西条八十 |
| かへらじと | 楠木正行 |
| 慶応義塾大学応援歌 | 粕谷真洋 |
| きたえる足 | 片桐顕智 |
| 古戦場の秋 | 葛原しげる |
| すみれ | 良寛 |
| 浜辺の歌（はまべ） | 林 古溪 |
| 望郷の歌 | 吉丸一昌 |
| ほろほろと | 行基 |
| 前田小学校歌 | 高橋政和 |
| 松島 | 松尾芭蕉 |
| 山の枇杷 | 北原白秋 |
| りすりす小栗鼠 | 北原白秋 |
- ※右は詞の作者



鷹巣南小学校



鷹巣中学校



鷹巣南中学校



コールもりよし



鷹巣混声合唱団



レディース・コーラス



M・M・C



る・それいよ



鷹巣西・北幼稚園



浜辺の歌キッズ



米内沢小学校



浦田小学校



合川北・東小学校



阿仁合小学校



浜辺の歌音楽館少年少女合唱団



鷹巣小学校



文化祭2日目の4日、「第1回浜辺の歌音楽祭」が市文化会館で開催され、幼稚園から一般までの各グループが「浜辺の歌」などの合唱曲を発表、ホール一杯にさわやかな歌声を響かせました。

第1回 浜辺の歌音楽祭を開催

成田為三を顕彰し、歌のあふれるまちをめざして

音楽祭は市教育委員会の主催。市教委や市の音楽関係者でつくる実行委員会（加賀隆寛実行委員長）によって企画され、準備が進められていたもので、「浜辺の歌」をはじめ、優れた童謡などを数多く作曲し、日本を代表する作曲家として知られる米内沢出身の成田為三（1893-1945）を顕彰するとともに、歌声のあふれる活気あるまちづくりにつなげることをねらいとしています。

第1回目となった音楽祭には、幼稚園から、小中学校、一般の合唱団など19団体、約500人が出演しました。開会式では、市教育委員会の三澤仁教育長が、旧森吉町が昭和63年に「浜辺の歌音楽館」を建設し、成田為三の顕彰を行ってきた経緯に触れながら、「新市誕生後は北秋田市が為三の出身地として知られる。合併を機に、市内の合唱グループが一堂に会する合唱祭を開催し、為三の偉業などを広く発信したい」とあいさつ。

また、岸部市長が、「合唱は音楽の原点。また、合唱のハーモニーは心のふれあいでもある。この音楽祭を機にさらに皆さんの活動が盛んになることを願っている」と祝辞を述べました。音楽祭は2部構成。午前中の第1部には幼稚園から小学校までの子どもたち9グループ、午後の第2部では、中学校3校と一般の合唱団が出演しました。各グループが発表した曲は、それぞれ2曲。うち1曲は、「浜辺の歌」をはじめ、童謡「赤い鳥小鳥」「かなりや」など、この音楽祭にちなみほとんどのグループが為三作曲の名曲を披露しました。会場に詰め掛けた聴衆の中には、懐かしみながら一緒に口ずさんでいる方も多く見られました。

1部・2部とも発表終了後には、大館市出身の作曲家・橋本祥路氏による講評が行われ、「合唱は、自分たちの気持ちを表す心のエネルギー。今日は全員が一体となって皆さんの気持ちがとてもよく表現されていた」と、各グループの発表を評価していました。

また講評のあと、鹿角市出身の声楽家（テノール）・安保克則氏による記念演奏が行われ、為三の童謡やイタリア民謡をしみじみと、また、朗々と歌い上げ、大きな拍手を浴びていました。